



SFS通信

平成26年9月11日発行(2014)

日本ボーイスカウト新潟連盟

スカウトフェローシップ委員会

編集長 杉山 剛

〒959-2658 胎内市西条602-11

TEL & FAX 0254-43-4879

事務局 〒951-8052 新潟市中央区下大川前通4の町

TEL 025-229-5454 FAX 025-229-5446

平成26年度 SFS委員会 全体集会 の 案内

猛暑もようやく盛りを過ぎたようです。皆様いかがお過ごしでしょうか。

「菊の香の 清(さやき)を秋の 心かな」

清涼な季節の訪れが待ち遠しい昨今です。

さて、例年のSFS委員会の全体集会を本年は下記の様に設定させて戴きました。是非多数の皆様にご参加いただき、秋の一夕を歓談に割いて戴けたらと考えております。信仰奨励・真の愛国心とは？問題山積、語り尽くしたいものです。

(記)

期 日

平成26年10月7日(火)、8日(水)

会 場

現地集合:7日 15時 現地解散:8日 10時

旅館 夕暁の宿 愛幸 (駐車場あり)

〒958-0012 新潟市西蒲区越前浜5223番地

TEL 0256-77-2990

日 程

7日: 15:20

開催 (報告 提案 審議)

(ご来賓: 理事長様 県コミッショナー様)

16:30

入浴

17:30

懇親会

8日 10:00

旅館出発(解散可能)

<希望者> 弥彦神社参拝 宝物殿参観 佐潟見学(白鳥など)

参 加 費

8,500円 + α (一万円 ご準備ください)

参加申し込み

9月23日までに各地区の幹事役にご連絡ください。

新潟地区 齋藤 眞憲氏 025-268-6038

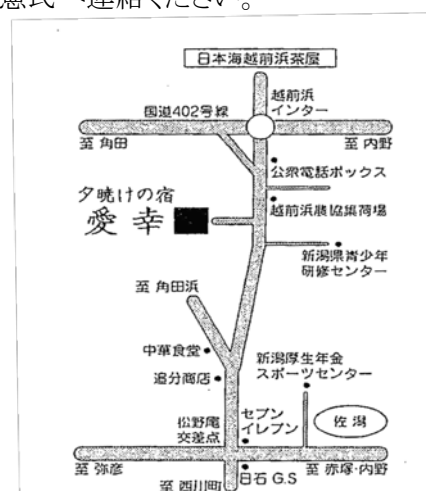
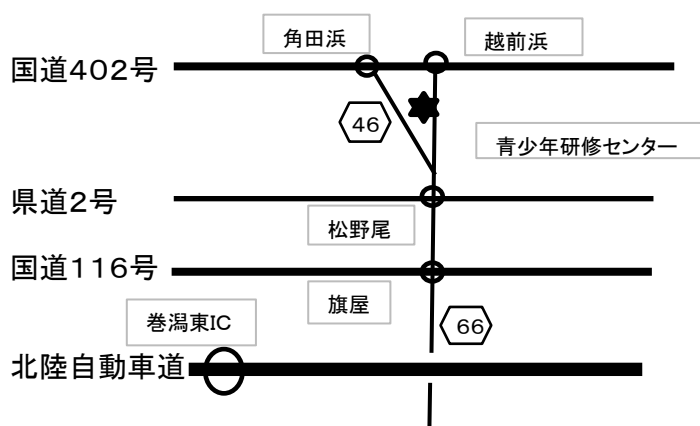
下越地区 杉山 剛氏 0254-43-4879

長岡地区 星 栄一氏 0258-33-9563

上越地区 星 栄一氏 0258-33-9563

各地区幹事さんは9月25日までに齋藤眞憲氏へ連絡ください。

アクセス



宗教章・信仰奨励章に関する資料について

神奈川連盟参与の矢島巖氏が、『スカウティングと信仰について』(CD付き)という貴重な資料を自主プロジェクトとしてまとめられました。

その内容は、昭和42年に大阪本願寺津村別院で行われた「仏教章研修会」での今田忠兵衛、中村知、吉川哲雄三師の講話を採録したものです。

- | | |
|----------------------|---|
| (1) 宗教章制定のいきさつ | 大阪連盟理事長(当時) 今田 忠兵衛
(昭和49年 日連総コミッショナー) |
| (2) スカウティングは終稿から生まれた | 先達 中村 知 (昭和47年 逝去)
(昭和24年 那須野野営長)
(昭和30年 日連事務局 指導主事)
(SFB翻訳 ちーやん歌集他著作多数) |
| (3) ボーイスカウトの修行と修験道 | 吉川 哲雄 (昭和42年逝去)
(昭和31年 日本連盟理事)
(昭和40年 日連事務局嘱託)
(われはふくろう 他作詞多数) |

昭和42年ということから宗教章制定初期(下記年表を参照)における研修会での講演であることが分かります。スカウティングと信仰との関係を説く先達三氏の情熱を感じることができます。またCDからの肉声も先輩のお力を自分のものとできるかのような思いを起こさせてくれます。

昭和37年(1062) 第3回日本ジャンボリー
 昭和37年(1062) 宗教章制定 仏教章制定 (キリスト教章は昭和39年) (スカウト誌37年7-8月)
 昭和40年(1965) スカウティングと宗教 (スカウティング誌12月号誌上座談会)
 昭和41年(1966) 期待される人間像(愛国心・宗教的情操) (中央教育審議会答申)
昭和42年(1967) 仏教章研修会(大阪)
 昭和42年2月～43年5月 明確なる信仰をもつことを奨励する方法の研究(中村知) (スカウト誌に連載)
 昭和47年(1972) 全国仏教スカウト連絡協議会を組織
 昭和59年(1974) 明確なる信仰をもつことを奨励する方法の研究(中村知) 再版 (全仏スカウト連協会)
 昭和54年(1979) 指導者のための 宗教ハンドブック (日連)
 昭和62年(1987) 信仰奨励のための スカウトヤーン I (日連)
 平成14年(2002) 信仰奨励のための スカウトヤーン II (日連)
 平成19年(2007) 信仰奨励章を制定
 平成20年(2008) 信仰奨励章修得のための手引き (日連)
 平成21年(2009) 信仰奨励のための仏教スカウト指導者ハンドブック(全仏スカウト連協会)

出来ますれば直接手にして先人の思いを受け継いでいただければと思います。

購入申し込み先	単価:2000円
環境共育グループ ビスタ ワールド	vistaworld21@yahoo.co.jp
主宰 矢島 巖	横浜市泉区泉町3775番地

矢島氏の思い:この音源テープは何十年もあためていたものです。七月 盂蘭盆の自主プログラムとして取り組みました。BS運動の衰退を憂うのみでなく、“退役トレーナー”として何かせねばの一念からのものです。先ずは各師の肉声をお聞きいただき、その後で冊子の要旨をたどっていただければと思います。信仰に基づくスカウト生活への教導を期待しています。

前ページで紹介した資料(冊子とCD)を齋藤先生にお読みいただき、その感想を戴きました。
皆様からのご意見をお待ちしています。

〈編集長より〉

「スカウティングと信仰について」を読ませて戴いて

新潟第11団 団委員長 齋藤 真憲

井上理事長さんからのご推薦の冊子の感想を書いて欲しいとのご要請でありましたので、まことに僭越との思いも強かったのですが、お断りをするとは次号のSFS通信の発刊に差し障りが生ずるとの脅迫もあり、敢えて筆を取らせて戴きました。

率直に言わせて戴ければ、このような大先達の熱誠込められたご提案や、ご指導にも拘わらず宗教章設定から50余年をも時が過ぎているのに、なかなか思うような成果を見ることが出来ないのは、それだけこの問題の難問性に改めて気付かされるところでもあるし、また私たちのなんと、努力の足らざる日々であったことかと慙愧の思いが募って参ります。

中村先生も、吉川先生も共に『スカウティングは宗教から始まった』と断言され、そのことはベーデンパウエルを書き残された数々の書物の中に明確に読み取れるし、更には、『無神論者はスカウトにあらず』とも書かれていると述べられている。

スカウト活動が澎湃として英国全土に巻き起こり始めた時期は産業革命のごく末期で、まさにイギリスの全土に社会の退廃と人心の荒廃が満ち溢れていた時である。この当時の様子は、私のライフワークでもあるチャールズ・ディッケンズの様々な小説に鮮明に描かれる青少年の悲惨な姿は私たちの涙を誘い、己の幸せさを思い起こさせ、必然的に慈善への心(利他愛)を膨らませてくれる。クリスマスキャロルを初めとする数多くの彼の小説を是非お読

み戴きたいし、スカウト達にも是非読ませて戴きたい。こんな社会情勢の中でスカウティングが発生したのかと良くご納得戴けると思います。

英国全土のキリスト教会は、乱れ切った社会から青少年を守るために各教会毎に青少年の育成や更正、更生のための組織を作って青少年に本当の人間の生き様を教え、信仰の喜びや務めを必死に伝えていた。そのような状況下であれば、スカウティングが教会の賛同を得て、スカウト活動に教会の求める信仰をその運動の核心の要素として取り入れて行くのが当然であったろうし、ベーデンパウエルの家系や育ちからして『スカウティング＝信仰・求道』であったとしてもなんら不思議でも無い。

英国のスカウト活動で、キャンプ地の都合で、居住地では毎週ミサに通っていたスカウトが、その当該の教会のミサに参加できない場合が生じた際に、リーダーや神父さんや牧師さんは、キャンプ地近辺にある同系統の教会に連絡してミサへの参加を可能にするなどその信仰指導の徹底ぶりには驚くものです。こうした信仰指導への配慮の数々を私も数多くの翻訳の中を通して発見しているのです。

英国を初めとして西欧各国は宗教と言えばキリスト教が主体であり、その他の地域にしてもイスラム教、仏教が主体であり、数百いや千にも及ぶ日本の宗教界とは全く違う条件下であるから、信仰指導や信仰への誘いも割に容易であり、糾合していくのもそんなに悪戦苦闘では

なかったのかもしれない。その点日本の場合
は、『新宗教辞典』や『日本宗教総覧』の数え
上げる宗教・宗派に加えてイベント宗教(二年
参り信徒やクリスマス馬鹿騒ぎ信徒等)を加え
た人々を導いていくことの難しさは並大抵でな
いことは私ならずとも皆様ご承知と思います。

日本の宗教界は、戦後GHQの指導によっ
て、日本国民の求心力となっていた神道を初
めとした既成宗教界の破壊から始まり新宗教
の乱立による、様々な社会混乱や学校教育に
於ける根強い宗教否定も加わり、すっかり日本
人に古来からあった神仏を初めとする自然へ
の畏怖、感謝、ひいては祖先への感謝や尊崇
の心さえも失われて来ている。

或る秘密結社によって日本民族を無宗教に

され、獣として扱おうとする陰謀の存在が公然
と囁かれる時となっているのは間違いがないと
思われます。

こんな悪条件の下、信仰教育を徹底し、間
違いのない信仰を育て上げていこうとする、い
や行かねばならない私たちの使命は大変なも
のであるはずなのです。

是非、今一度自分を見つめ直し、本当の人
間のあり方を学び直し、実践し、価値ある人生
であったと自負できる自分を作り上げ、可愛い
子供たちにも喜びの人生を送らせてあげたい
ものです。

井上理事長のご紹介の書籍の一読をお勧めします。

平成26年9月3日

歳とって生まれた三女の結婚式に当たって

今回ご紹介した資料以外に ビスタワールドが出版しているもの

- | | |
|-----------------------------|-------------|
| ① 「日本のスカウト遺産百選」[CD] | 送料込み ¥1,000 |
| ② 先達 十話シリーズ 全8編[CD8枚セット] | 送料込み ¥3,500 |
| ③ 追補「B-P夫妻(手書きの)メッセージ集」[CD] | 送料込み ¥1,000 |

この他に絶版になったものとして、「鹿野さん十話 追悼版」がありました。

これらの出版の収益金は、B-P卿のスカウティング創始1世紀を機縁してビスタワールドが単独で
行ってきた「日本のスカウト遺産100選」を伝承する基金として役立てるということです。

ビスタワールド の ホームページを [www. vistaworld21. com](http://www.vistaworld21.com)

覗いてみてください！！

ご参考まで……BS関連書籍について <http://linkclub.or.jp/~scouting/sbj.html#situdoku>

私見 信仰奨励章

BVS隊長 杉山 剛(中条1)

<信仰奨励章>

隊長は団委員長を経由し県連盟に申請する。
教育規定施行細則7-6-1による取得条件

- ① 初級BS～VS
- ② スカウトOWN・サービスに参加
- ③ スカウトOWN・サービスで自分ができる役割を果たし……発表する。
- ④ スカウトOWN・サービスで主要な役割を果たす。
- ⑤ アンノンスカウトの逸話を調べ他の人に伝える。日々の善行の実践状況を話す。
- ⑥ 年間での班としての奉仕活動を考え実行する。
- ⑦ 自分の家の宗教に興味をもった宗教の行事に参加する。
- ⑧ 自分の家の宗教に興味をもった宗教の教導職からお話を聞く。
- ⑨ B-Pのラストメッセージを読んで班内で話し合う。

<宗教章>

隊長は教導職を通して県連盟・日本連盟に申請する。
教育規定施行細則7-7-1による取得条件

- ① 1級BS～RS
- ② 自分の所属している教宗派の歴史と教えを知ること。
- ③ 自分の所属している教宗派の宗教行事について知ること。
- ④ 礼拝の作法について知ること。
- ⑤ 信仰に基づき地域社会の為に奉仕すること。
- ⑥ 自分の生活の中に教えをどのように実践しているか記録を提出すること。

スカウティングは宗教から生まれたという。これには同意できる。宗教教育を行う唯一の青少年育成団体としてゆるがせには出来ないことである。

最大の問題点は宗教教育を行う土壌が貧しいことに尽きる。しかしこのことを強調することは何の解決策も生まない。

スカウティングは子供たちを育てる活動ではない。子供のみでなくその家庭そして指導者自身をも成長させる活動でなくてはならない。そうでなくてはこの運動は消え去ってしまう。

なぜか？この運動をけん引すべき指導者が輝かない活動は魅力がないからである。スカウティングは指導者が全霊をかけて行うにふさわしい活動である。指導者に魅力がなければ保護者は大切な我が子を託さない。たとえ託したとしてもBSの看板に頼るのみでは早晚メッキが剥がれ落ちる。

我々は子供会活動を行っているのではない。明確なビジョンのもとで動いている。指導者のそれに費やすエネルギーは半端ではない。そのエネルギーにも関わらずBS運動が低迷している現実には誰も許容できるものではない。

吉川哲雄氏のいわれる通り、技能章は千手観音の手である。その手を使う心をスカウトに与えているのだろうか？はたまた指導者自身その心を持っているのだろうか？その心こそ信仰その

ものである。

ここで宗教章、信仰奨励章について考えてみたい。(日連規約は前記)

宗教章は、具体的な既成宗教を信じていること。言葉を換えれば固有名詞を持つ神仏を信ずるということである。しかし現在の日本では先ず難しいと思う。濃い宗教雰囲気下にある団の場合以外は団のメイン活動にはならない。その為ここではこれ以上触れない。(勿論固有名詞のある神仏を信じる事が出来る方は本当にうらやましいと思う。依るべきものの帰るべきところがあるということは素晴らしいことである。)

信仰奨励章は、宗教章に挑戦するための土台となるものである。日連プログラム委員会文書によれば

- * 「自分ひとりで生きているのではなく、生かされている自分」という心をつちかう。
- * 神仏もしくは目に見えない創造主の存在を信じ、また自然から与えられた恩恵により人は生かされていること。
- * そして、その恩恵は人々の善意によってあらわされ、その心と行為によって生活が成り立ち、その結果自然や人の心は人間の意志では自由に動かせないという心

これが信仰心である。

私は上記の文章には100%同意できる。但し創造主という言葉の代わりに人間を超える大いなるものとするだけでだ。

命の流れ(縦)、命の広がり(横)を思い、自然や人体の不思議さを知れば知るほどその神妙な仕組みに驚かされる。このようなプリミティブなことから人の理解を超えた大いなる力(something - great)の存在を認めることは多くの人にとって受け入れ可能なのではないかな。

大いなる力により我々が生かされていることを感じることから他者への思いやりが生まれてくる。神に命じられなくても隣人を愛することができる。BSのちかいとおきては全て他者の存在を前提にしている。他者の存在に気づく時が、己の傲慢さに気づく時である。傲慢な人間にはちかいとおきては遠い存在であろう。この大いなる力に気づくことが人間として生きていく出発点になると信じている。

このことを指導者が共通認識として受け入れることができるなら、日々の活動の中で信仰奨励章は指導可能である。それどころか指導の過程で指導者自身の生活も間違いなくより豊かなものに変わっていくであろう。指導者が既存の宗教に帰依していなくても素朴な自然への畏敬の念やその不思議さ、そして命の流れを尊く思うことが出来れば自信をもってスカウトを指導することが出来るのです。

多くの方は宗教の教えに皮相的にしか触れず又、学問として勉強することで宗教の煩瑣な教えや疑問に感じるレトリックに悩ませられ、はたまた宗教に起因する絶える事のない戦争を見るにつけ宗教を毛嫌いされているように思う。(私も同様で組織化された既存宗教に帰依する気持ちは無い。しかし既存宗教を尊ぶ心は強い。)

そんな多くの指導者の方に伝えたいこと、それは大いなる力の存在をスカウトに伝えることである。そこからBSのちかいとおきてはご自身の言葉として発することが出来る。スカウトカウンセラーも形にはまることなく実行可能である。

ここで私個人の宗教生活についてご紹介する。家の宗教は浄土宗。次男の為長い間仏壇の無

い生活をしていたが、退職を機に兄にお願いし、位牌分けをしてもらい仏壇を整え、日々浄土宗のお経をあげているが、仏は大いなる力を見出した方、法は大いなる力そのもの、僧は大いなる力に導かれる方、と心の中で読み変えている。専修念仏も坐禅のつもりで行っている。浄土宗の形を借りたsomething-great宗である。勿論書類には仏教徒と書く。五戒は守っている。仏教書は哲学書として読んでいる。

私には救済神にすぎるとなような経験は幸いになかった(これからもないことを願う。・・誰に願っているのかはわからない)。そのような宗教心のない男でもsomething-greatは感じている。心から。

信仰奨励章はスカウトのみでなく多くの指導者にも修得してもらいたい気持ちでいっぱいである。

今小学校での放課後子供教室を預かっている。1年生～4年生が大半の約90人。始まりの会で5～10分お話をしている。その内容は信仰奨励章指導と同様のお話である。論語や詩を借用して自分も勉強させていただいている。

所属している中条第一団での取り組みはまだ不十分である。理由はただ一つ、指導者の足並みがそろわないこと。全指導者が同じ思いにならなければ日常活動にはならない。時折スカウトに話をする程度ではやらないよりはやった方が良いという程度。この文章も足並みを揃える過程でのものである。

願わくば県連指導者養成プログラムの中に信仰奨励章指導についての数時間を入れていただきたいものである。宗教なんて・・・と言わないで、あなたご自身が、スカウトが幸せになる方法を学びませんか。指導に当たられる教導職の方にはご自身の信仰されている教宗派色から離れ、プリミティブな畏怖・不思議・奇跡を感じる心などを中心にご指導いただければと願う。